



ひらどだい

平成31年度
学校だより 5月号
横浜市立平戸台小学校
学校長 柴崎 美佐



そったくとうじ 啐啄同時



校長 柴崎 美佐

若葉が一斉に芽吹いて、吹き渡る風が爽やかに感じられる季節となりました。先週の「^{いちねんせい}一年生を迎える会」では堂々と「ドキドキドン！いちねんせい」の歌を披露してくれた一年生も、少しずつ学校生活に慣れ、元気に登校している様子です。今年度のスタートを日々事故無く過ごせたことにも、地域の見守り隊や保護者の皆様のおかげと感謝申し上げます。



さて、「^{そったくとうじ}啐啄同時」これは友達の校長先生から教えていただいた禅の言葉です。「^{そつ}啐」は雛が内側から卵のからをつつくこと、「^{たく}啄」は親鳥が外側からからをつつくことを言います。

雛は自力で卵のからをつついて外に出ようとしますが、親鳥は雛の様子に合わせ、それを外から応援するようにつついてやる。雛の今まさに生まれようとする思いが高まり、内と外のつづくタイミングが「同時」に合ったからこそ、雛はスムーズに誕生することができるという意味なのです。転じて、「^{そったく}啐啄」は禅宗において今まさに悟りを得ようとしている弟子に、師匠がすかさず教示を与えて悟りの境地に導くことを言います。つまり、「啐啄同時」は何かをするのに絶好のタイミングを逃さないこと——これは、教育や親子の関係にも当てはまるのではないのでしょうか。

子どもの育つペースは一人一人違います。子どもが自分でやろうとしているのに、先回りして大人が手助けしてしまっているということはないのでしょうか。先ほどの場合、もしまだ雛の準備ができていないのに親が先につついてしまったり、雛が必死に出ようとしているのにそれに親が気づいてあげられなかったりしたら、卵のからは上手に割れないでしょう。

誰しも伸びたい思いはあり、機が熟するときがあります。経験を重ねてきた大人は、自分の安心のために先回りして手を差し伸べてしまいがちです。本当に子どもにとって必要なタイミングで必要な支援をしているだろうか——。私たち教師も、子どもたちの自分で伸びようとする好機を見極めて、一番必要な場面で力を貸してあげられる大人でありたいと思います。自らや学校現場を振り返りつつ、「啐啄同時」の言葉を心にとめておきたいと思いました。



今年度は、平戸台小学校40周年を迎え、キャラクターを決定し児童による「学校の40才を祝う集会（仮称）」も計画中です。令和元年度も、教職員が一つになって子どもたちの幸せのために力を尽くしていく覚悟です。

どうぞ今後ともご理解ご協力をいただきますようお願い申し上げます。